

ふなうた  
25.26「舟歌」

さけ ぬる かん い  
1. お酒は温めの 爛が良い 酒是温過的比較好  
さかな あぶ いか い  
肴は炙った イカで良い 菜餚是烤烏賊就好  
おんな むくち ひと い  
女は無口な 人が良い 女人是寡言的比較好  
あか とも い  
灯りはぼんやり 灯りゃ良い 燈光是點到模糊就好  
の  
しみじみ飲めば しみじみと 深切地喝時回憶就深切地  
おも で ゆ す  
思い出だけが 行き過ぎる 擦身而過了  
なみだ ぽろり こぼ  
涙がポロリと 溢れたら 眼淚脫眶而流時  
うた だ ふなうた  
歌い出すのさ 舟歌を 就要唱出 船歌喔

おき かもめ ふかざけ  
沖の 鷗に 深酒させてよ  
給海上的海鷗多喝點酒吧

いと こ よ あさね  
愛し あの子とヨ 朝寝する  
想跟可愛的姑娘睡賴覺喔

だん ちょね  
ダンチヨネ 斷腸般的悲痛心情呢

みせ かざ な い  
2. 店には 飾りが 無いが良い 店是不裝飾的比較好

まど みなと み い  
窓から 港が 見えりゃ良い 從窗戶可看到港就好

はや うたなど な い  
流行りの歌等 無くて良い 沒有流行的歌比較好

ときどき むてき な い  
時々 霧笛が 鳴れば良い 只要霧笛經常叫就好

ほろほろ飲めば ほろほろと 悄悄地喝時

こころ な  
心が すすり 泣いている 心就悄悄地啜泣起來了

ころ こ おも  
あの頃 あの子を 思ったら 思念那時那個姑娘的話

うた だ ふなうた  
歌い出すのさ 舟歌を 就要唱出 船歌喔

の  
ぽつぽつ飲めば ぽつぽつと 慢慢地喝時

みれん むね ま もど  
未練が 胸に 舞い戻る 依戀就慢慢地重返心中了

よふ さび  
夜更けて 寂しく なったなら 深夜時感覺寂寞的話

うた だ ふなうた  
歌い出すのさ 舟歌を 就要唱出 船歌喔

ルルル…………… 嚕嚕嚕……………

27.28「<sup>こころ</sup>心<sup>のこ</sup>残り」

わたし ばか ばか  
1. 私 馬鹿よね お馬鹿さんよね

我是個傻瓜 真是個傻瓜呀

うし ゆび うし ゆび さ  
後ろ指 後ろ指 指されても

即使被人家在背後指指點點

ひとり いのち  
あなた一人に 命 をかけて 仍舊為你賭命

た き きょう  
耐えて来たのよ 今日まで 咬緊牙根忍耐到今天

あきかぜ ふ みなと まち  
秋風が吹く 港の町を 秋風吹拂著港都

ふね で ゆ  
船が出て 行くように 像船隻陸陸續續地進出

わたし たび で あす あさはや  
私も旅に出るわ 明日の朝 早く

明天一早 我也即將遠行了

わたし ばか ばか  
2. 私 馬鹿よね お馬鹿さんよね

我是個傻瓜 真是個傻瓜呀

たいせつ たいせつ じゅんじょう  
大切な大切な純情を 把最真誠的純情

わる ひと し  
悪い人だと 知っ<sup>し</sup>ていながら 明知不是好人

あ  
上げてしまった あなたに 仍奉獻給你

あきかぜ なか かれは ひと  
秋風の中 枯葉が一つ 像是秋風中的一片枯葉

えだ はな  
枝を離れるように 吹離了枝頭一般

わたし たび で あ な  
私も旅に出るわ 当ても無いままに  
我也即將遠行 連目的地也沒有

わたし ばか ばか  
3. 私 馬鹿よね お馬鹿さんよね  
我是個傻瓜 真是個傻瓜呀

あきら あきら わる  
諦めが諦めが悪いのね 我真是不死心

いちどはな ころろ にど  
一度離れた 心は二度と 離棄了心境

もど もと  
戻らないのよ 元には 再也不會回到以前的樣子了

あきかぜ ふ つめ そら  
秋風が吹く 冷たい空に 秋風吹過了淒冷的天空

とり と た  
鳥が飛び立つように 像飛去的小鳥般

わたし たび で ひとり な  
私も旅に出るわ 一人泣きながら  
我也要獨自飲泣而遠行了

みなとまちぶるーす  
29.30「港町ブルース」

1. 背<sup>せの</sup>伸び<sup>み</sup>して<sup>かいきょう</sup> 見る<sup>み</sup> 海<sup>かい</sup> 峡<sup>きょう</sup> を 伸<sup>の</sup>起<sup>り</sup>腰<sup>こし</sup>來<sup>き</sup> 眺<sup>のぞ</sup>望<sup>み</sup>海<sup>かい</sup>峡<sup>きょう</sup>

きょう きてき とお  
今日<sup>けふ</sup>も<sup>も</sup>汽<sup>き</sup>笛<sup>ふえ</sup>が<sup>が</sup> 遠<sup>と</sup>ざ<sup>さ</sup>かる<sup>る</sup> 今<sup>けふ</sup>天<sup>てん</sup>汽<sup>き</sup>笛<sup>ふえ</sup>聲<sup>こゑ</sup>也<sup>も</sup>在<sup>あ</sup>遠<sup>と</sup>離<sup>り</sup>了<sup>し</sup>

あなた<sup>あ</sup>に<sup>な</sup>あ<sup>げ</sup>た<sup>た</sup> 夜<sup>よる</sup> を 返<sup>かえ</sup>して<sup>て</sup> 把<sup>を</sup>給<sup>く</sup>你<sup>の</sup>的<sup>の</sup>夜<sup>よる</sup>晚<sup>ばん</sup>退<sup>たい</sup>還<sup>げん</sup>吧<sup>や</sup>

みなと みなと はこだて とお あめ  
港<sup>みなと</sup> , 港<sup>みなと</sup> 函<sup>は</sup>館<sup>こだて</sup> 通<sup>と</sup>り<sup>お</sup>雨<sup>あめ</sup> 港<sup>みなと</sup> 港<sup>みなと</sup> 函<sup>は</sup>館<sup>こだて</sup> 陣<sup>じん</sup>雨<sup>あめ</sup>

なが なみだ わ さけ  
2. 流<sup>なが</sup>す<sup>す</sup> 涙<sup>なみだ</sup> で 割<sup>わ</sup>る<sup>る</sup> 酒<sup>さけ</sup> は 用<sup>よ</sup>流<sup>り</sup>出<sup>し</sup>的<sup>てき</sup>的<sup>てき</sup>淚<sup>なみだ</sup>水<sup>すい</sup>稀<sup>し</sup>釋<sup>り</sup>的<sup>てき</sup>酒<sup>さけ</sup>

だま おとこ あじ  
騙<sup>だま</sup>した<sup>した</sup> 男<sup>おとこ</sup> の 味<sup>あじ</sup> が する<sup>する</sup> 飄<sup>ひ</sup>散<sup>さん</sup>著<sup>して</sup>欺<sup>き</sup>騙<sup>ぼく</sup>之<sup>の</sup>男<sup>おとこ</sup>的<sup>てき</sup>體<sup>たい</sup>味<sup>み</sup>

あなた<sup>あ</sup>の<sup>の</sup> 影<sup>かげ</sup> を 引<sup>ひ</sup>き<sup>き</sup>ず<sup>ず</sup>り<sup>り</sup>な<sup>な</sup>が<sup>が</sup>ら<sup>ら</sup> 我<sup>わ</sup>拖<sup>ひ</sup>著<sup>して</sup>你<sup>の</sup>的<sup>てき</sup>身<sup>しん</sup>影<sup>えい</sup>

みなと みやこ かまいし けせんぬま  
港<sup>みなと</sup> , 宮<sup>みや</sup>古<sup>こ</sup> 釜<sup>かま</sup>石<sup>いし</sup> 氣<sup>け</sup>仙<sup>せん</sup>沼<sup>ぬま</sup> 港<sup>みなと</sup> 宮<sup>みや</sup>古<sup>こ</sup> 釜<sup>かま</sup>石<sup>いし</sup> 氣<sup>け</sup>仙<sup>せん</sup>沼<sup>ぬま</sup>

でふね いりふね わか ぶね  
3. 出<sup>で</sup>船<sup>ふね</sup> 入<sup>い</sup>船<sup>ふね</sup> 別<sup>わか</sup>れ<sup>れ</sup>船<sup>ふね</sup> 出<sup>し</sup>港<sup>こう</sup>船<sup>ふね</sup> 入<sup>い</sup>港<sup>こう</sup>船<sup>ふね</sup> 離<sup>り</sup>別<sup>べつ</sup>船<sup>ふね</sup>

あなた<sup>あ</sup>に<sup>な</sup>乗<sup>の</sup>せ<sup>せ</sup>ない<sup>ない</sup> 帰<sup>かえ</sup>り<sup>り</sup>船<sup>ふね</sup> 還<sup>や</sup>有<sup>あ</sup>你<sup>の</sup>不<sup>ふ</sup>塔<sup>た</sup>乘<sup>じょう</sup>的<sup>てき</sup>回<sup>かい</sup>家<sup>か</sup>船<sup>ふね</sup>

うし すがた たにん そらに  
後<sup>うし</sup>ろ<sup>ろ</sup> 姿<sup>すがた</sup> も 他<sup>た</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>空<sup>そら</sup>似<sup>に</sup> 背<sup>せ</sup>影<sup>えい</sup>已<sup>い</sup>跟<sup>ぐ</sup>陌<sup>ま</sup>生<sup>せい</sup>人<sup>にん</sup>相<sup>さ</sup>似<sup>に</sup>

みなと みさき やいづ おまえざき  
港<sup>みなと</sup> , 三<sup>み</sup>崎<sup>さき</sup> 燒<sup>や</sup>津<sup>いづ</sup>に<sup>に</sup> 御<sup>お</sup>前<sup>まえ</sup>崎<sup>ざき</sup> 港<sup>みなと</sup> 三<sup>み</sup>崎<sup>さき</sup> 燒<sup>や</sup>津<sup>いづ</sup> 御<sup>お</sup>前<sup>まえ</sup>崎<sup>ざき</sup>

わか みつき ま  
4. 別れりゃ 三月 待ちわびる 分手後已翹首等待三個月  
おんなごころ

女 心の やるせなさ 女人的心多麼憂鬱鬱不樂

あす い こんや ほし  
明日は要らない 今夜が欲しい 不要明日 需要的是今夜

みなと こうち たかまつ やはたはま  
港，高知 高松 八幡浜 港 高知 高松 八幡浜

よ とど ひと な  
5. 呼んで届かぬ 人の名を

呼叫也聽不到的那個人的名字

こぼ さけ ゆび か  
零れた酒と 指で書く 用灑落的酒 沾在手上寫著

うみ なみだ ぐち  
海に 涙の ああ 愚痴ばかり

淚流似海 啊 只是無用的呢喃罷了

みなと べっふ ながさき まくらざき  
港，別府 長崎 枕崎 港 別府 長崎 枕崎

おんなごころ のこ び  
6. 女 心の 残り 火は 女人心中殘餘的火 點燃著

も み や さくらじま  
燃えて 身を焼く 桜島 燃燒著 身軀 櫻島

かごしま たびじ は  
ここは 鹿兒島 旅路の果てか

這裡是鹿兒島 竟是旅途的終點嗎

みなと みなとまちぶる ーす  
港，港 町 ブルースよ 港 港都布魯士唷